

§ 5 架設時カンバーの誤差要因について

架設時カンバーに影響を及ぼす要因

〔カンバーに
対する影響度〕

1. 設計上

- ① 仮定鋼重 ±5% ▲
- ② 仮定剛度 ±10% 型式によって○
- ③ フランジ有効幅の取り扱い（特に鋼床版桁の場合） // ○
- ④ モデル化による誤差（剛構造、多室箱桁etc） // ○
- ⑤ 上げ越し △
- ⑥ 〔乾燥収縮、クリープによる上げ越し〕
- ⑦ 〔死荷重の載荷方法〕

2. 製作上

- ① 材料誤差（板厚差、実応力差 etc） ▲
- ② 溶接施工誤差（脚長、のど厚の過不足） ▲
- ③ 部材寸法、組立誤差 △
- ④ 仮組立誤差（無応力状態の確認） ◎

3. 架設上

- ① 橋梁型式と架設工法による施工誤差
 - <橋梁型式による場合>
 - 合成桁
 - 鋼床版
 - <架設工法による場合>
 - 片持式（手延べ、引き出しetc）、エレクション
 - バンド工法（バンドの有無）
- ② 継手方法による施工誤差
 - 溶接継手 ◎
- ③ 仮設添加物による施工誤差
 - 足場防護工 △
 - 軌条設備他 ▲

組み合わせ
による ◎

4. 気象上

- ① 温度差
 - 測定時期の違い ○
 - 部材温度差 箱桁、鋼床版では ◎

〔影響度の判定〕 ▲；あまり影響しない △；影響することがある
○；影響することが多い ◎；影響大である